

## 「近代植民地朝鮮資料」解説のための文字としての「ハングル」

坂本悠一 / 立命館大学コリア研究センター 研究員

本稿では、「旧中華帝国」の冊封国でかつ日本の統治と戦後に深刻な内戦を経験したヴェトナムと韓国/北朝鮮を対照させて考察する。この3国は漢字由来の単語が70%を占めながら漢字が全く使用されないという点で共通するが、その歴史的過程はかなり位相を異にする。ともに元来固有の文字が無く漢文を正文として科挙によって統治集団を維持してきた。彼らは固有の「話し言葉」との乖離を独特の技法に依って克服していた。

「越南」という漢字由来の国名を持ったヴェトナムであるが、早くも10世紀に中国支配から離脱して独立した諸王朝を樹てた。13世紀頃には漢字の一部を借用するか、偏と旁を独自に組み合わせて新しい字体を生み出す「字喃chữ nôm」が考案されたが、漢字の知識が必要なことから一般的に普及しなかった。19世紀に入るとフランスの軍事的侵略が進行し、1887年には「仏領インドシナ連邦」の植民地統治に組み込まれた。仏語は政庁の公用文に採用するに留め、公教育では仏語とローマ字表記ヴェトナム語を導入した。この表記法は「國語quốc ngữ」と命名され、開明的な知識人が1907年ハノイに設立した「東京義塾」では漢文・仏語とともに教授された。17-18年の教育改革により科挙が廃止され、23年からは小学校低学年でquốc ngữが導入された。45年に独立すると、中等教育科目ではヴェトナム語が仏語に取って代えられ、76年に南北統一を果たした後も54の多民族国家「ヴェトナム社会主義共和国」における唯一の公用語として定着している。

朝鮮では漢文を朝鮮語読みする「口訣<sup>クギョル</sup>글」が出現し、更に語順を換えて読み下す「吏読<sup>イドク</sup>이독」が一般化していた。しかし画期的だったのは、1443年に世宗大王が主導して口蓋の形態と「陰陽五行」説を駆使して独自の母音と子音を発明した「訓民正音<sup>フンミンジョンウン</sup>」だった。当初は「諺文<sup>オンムン</sup>언문」として卑下されていたが、平民層や上流女性の識字能力が画期的に向上した。大韓帝国期の1894年「甲午改革」では「國文」として認定され、開化派の機関紙として1896年創刊の『獨<sup>ダン</sup>立<sup>ニップシムン</sup>新聞』でも採用された。1910年の併合以降の教育においては、日本人教師による日本語を「國語」とする授業が実施されていた。19年に「武断統治」に

対する三一独立闘争が生起すると、朝鮮総督府は「文化統治」を標榜し、従来の「朝鮮語及漢文」を「朝鮮語」とし、朝鮮語(漢字<sup>スシギョル</sup>混交)新聞の発行を許可した。「訓民正音」は12年に周時経<sup>スシギョル</sup>によって「<sup>ハン</sup>글」と命名され、21年には「朝鮮語研究会」が設立され30年に「諺文綴字法」が制定された。しかし中国侵略戦争が進行すると「皇民化」政策に転じ、38年には「朝鮮語」という科目も廃止された。45年の解放後、北朝鮮では49年に漢字の使用を廃止し徹底した<sup>ハン</sup>글専用化が進められた。韓国では<sup>ハン</sup>글専用→漢字混用→<sup>ハン</sup>글専用→漢字併記と動揺を経てきたが、現在では学術著作を除いてマスコミを含めて漢字の使用は極めて稀である。なお教科目としては「國語」に加えて「漢文」があり一定数の漢字(繁体字)を教えているのは、北朝鮮も同様である。なお南北と在日に共通する用語として、韓国/朝鮮語を「우리말(我らの言葉)」と呼ぶこともあり、言語ナショナリズムを象徴している。因みに韓国では民主化以前の歴史科目は「國史」と称し教科書も国定であった。

「旧植民地資料」という文書群は、朝鮮に限らずいずれも当時の統治機構を筆頭に「日本人が日本語で」作成したものである。明治政府はアイヌ語や琉球諸語を除いた「方言」を排除した標準語を創作して「國語」とし、旧漢字旧仮名遣い様式の文体が公用語とされた。こうした文書の解説には高度の漢字能力が必須であるから、若い研究者にとってはかなりのハードルとなる。しかしこの点ではヴェトナム語に比較して朝鮮語は圧倒的に優位である。前者がアルファベット表記であるのに対し、<sup>ハン</sup>글は漢字1字=<sup>ハン</sup>글1字という特性から漢字へのアクセス度が極めて高い。具体例を挙げると、胡志明→Ho Chi Minhに対して金日成→김일성のように、ひとつの子音に複数の母音を組み合わせる받침という機能によって漢字が可視化され易くなっている。最後にヴェトナムでは全国統一王朝が継続的に統治できなかったのに対し、朝鮮では統一新羅→高麗→李氏朝鮮と統一政権が継続したため、『三國史記』～『朝鮮王朝實錄』という漢文の「正史」が存在し、歴史教育にも活用されているということも見逃せない。